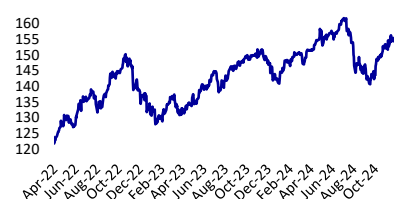


## 市場動向

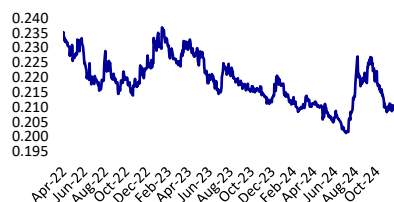
## ■USD/TWD



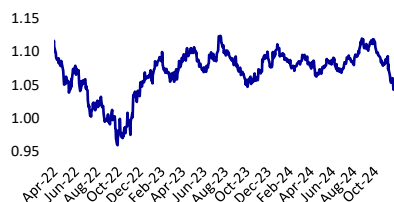
## ■USD/JPY



## ■JPY/TWD



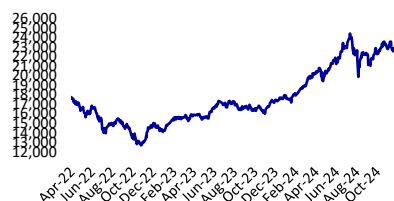
## ■EUR/USD



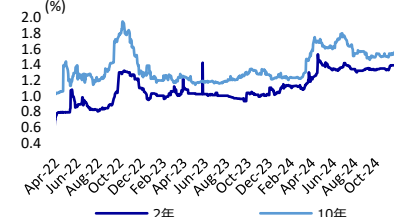
## ■USD/CNH



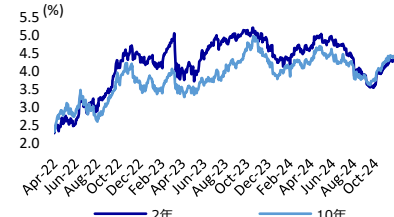
## ■台湾加権指数



## ■台湾国債利回り



## ■米国債利回り



## 先週の市場動向

## ■USD/TWD

先週のドル/台湾ドルは上昇。週初11/18は32.430でオープン後、先週末に発表された米経済指標が堅調だったことで、ドル高が進行。午後、外資による資金流入や投信基金の送金が見られ、32.531でクローズ。11/19は、グローバルにドルが反落する中、アジア通貨全般に買い圧力が掛かったものの、輸入企業や政府基金などによるまとまったドル買いが散見され、32.420でクローズ。11/20は、台湾株が下落したことを受け、外資による資金流出や輸出企業によるドル売りが見られ、32.494でクローズ。11/21は、ロシアとウクライナの地政学リスクへの懸念が高まる中、外資や石油会社によるドル買いが見られ、最終的には32.545でクローズ。11/22は、半導体関連株が上昇する中、海外市場における旺盛なドル買い意欲がドル/台湾ドルの底値をサポート、最終的には前週比0.39%ドル高台湾ドル安の32.593で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は502.3億台湾ドル。

## ■USD/JPY

先週のドル/円は上昇。週初11/18は154.30でオープン後、植田総裁は金融政策につき経済情勢を見極めた上で判断する姿勢を強調すると、154円台半ばで揉み合い推移。11/19は、植田総裁より「為替市場の動向を緊張感をもって注視し、行き過ぎた動きに適切な対応を取る」とのスタンスが示されたことで、為替介入への警戒感からドル/円は上昇。海外時間、地政学リスクが懸念され、リスク回避の円買いが一時進んだが、米金利の上昇とともに、ドルが買い戻され、154円台後半でレンジ推移。11/20は、米国における利下げ織り込みが剥落したが、日本における為替介入への警戒感から155.84まで上昇。11/21は、Fed高官のタカ派的な発言を受け、155円台前半まで底堅く推移。午後、植田総裁は金融政策について「手元にある情報に基づき、会合ごとに決定する」とのスタンスが示されると、154円台前半まで下落。11/22は、発表された10月東京都CPIは市場の予想通りとなった一方、日11月製造業PMIは市場予想を下回ったことを受け、154円台後半で揉み合い推移。海外時間に入ると、米11月サービス業PMIが予想を上回り、155.02まで上昇したものの、続いて発表された米11月ミシガン大学消費者マインド指数と1年先のインフレ期待が下方修正された事が嫌気され、最終的には前週比0.41%ドル高円安の154.80で先週の取引を終了。

## 今週の見通し

## ■USD/TWD 予想レンジ：32.250-32.650

今週のドル/台湾ドルは上値重く推移する予想。Fed高官のタカ派的発言を受け、ドル高が進行したものの、輸出業者による月末の外貨売りが見込まれる中、ドル売り優勢となるだろう。FOMC11月議事要旨や重要経済指標などに注目が集まる見込み。

## ■USD/JPY 予想レンジ：153.50-157.50

今週のドル/円は上値重く推移する予想。日銀の植田総裁は利上げについて、経済情勢を見極めた上で判断する姿勢を強調したことに加え、FOMC11月議事要旨を控える中、ドル/円は上値の重い推移となるだろう。

## 今週の予定

|             |                                         |
|-------------|-----------------------------------------|
| 11/25 (MON) | 台湾10月鉱工業生産                              |
| 11/26 (TUE) | FOMC11月議事録要旨                            |
| 11/27 (WED) | 米10月耐久財受注、Q3GDP、10月個人所得、10月個人消費支出、コアPCE |
| 11/28 (THU) |                                         |
| 11/29 (FRI) | 日11月東京都区CPI、10月失業率、台湾Q3GDP              |

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。